

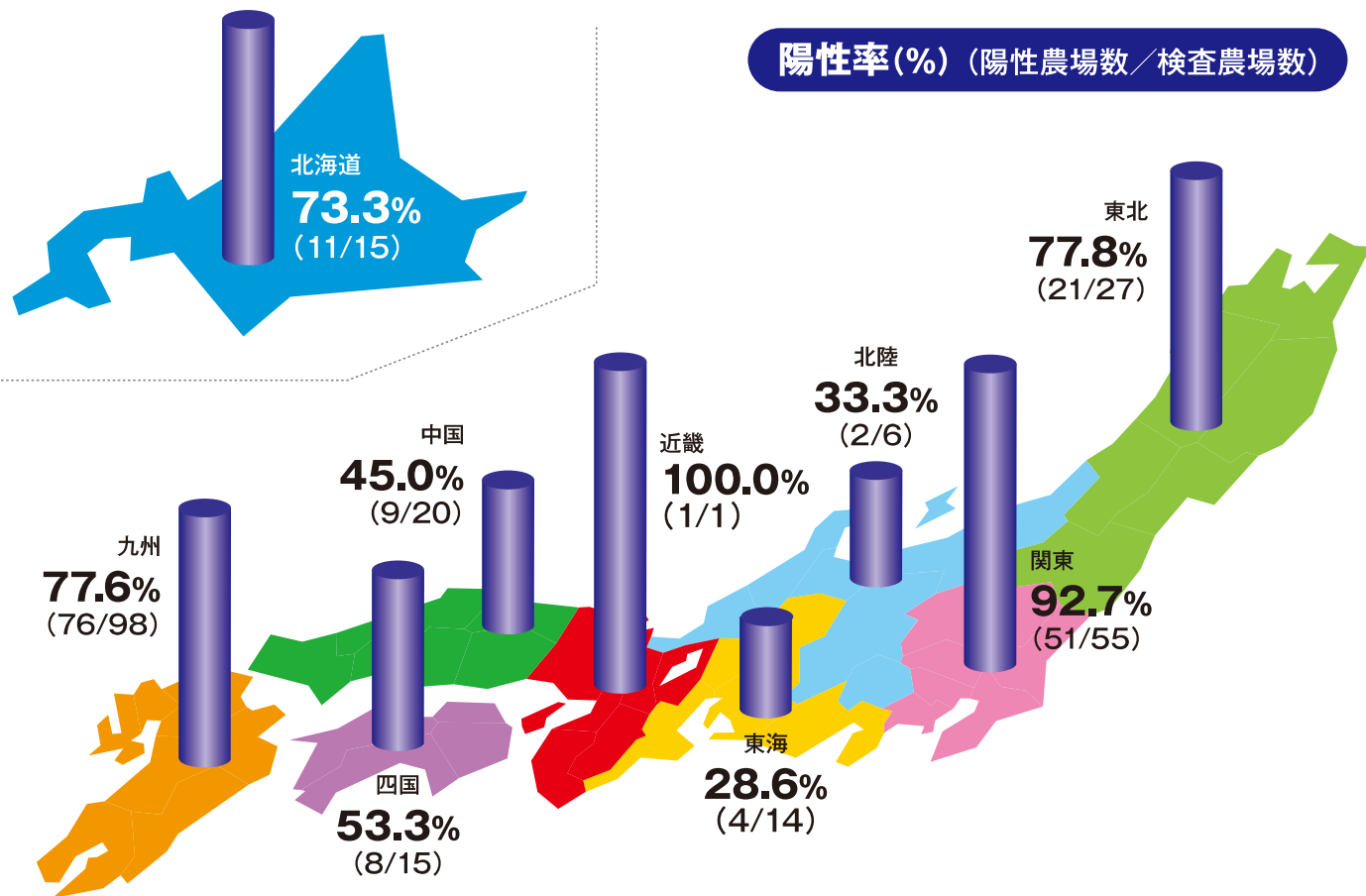
国内におけるSIV浸潤状況

～正しく把握し、的確な対策を講じるために～

目的 SIVの地域別農場陽性率を把握する

期間 2018年12月～2019年12月

陽性率(%) (陽性農場数/検査農場数)



沖縄
データなし
(0/0)



ゾエティス・ジャパン(株)が提供する検査サービスの結果を用いて、SIV農場陽性率を調査

個々の農場で実施したELISA法について、病性鑑定指針(農林水産省消費・安全局監修)の診断基準を参考にして、以下の基準を満たすものを陽性農場としました。(種豚、候補豚は除く)

[SIVワクチン未使用農場]

90日齢以降(移行抗体消失後と解釈)にELISA値で陽性を示した肉豚が1頭以上認められた農場を「陽性農場」としました。

[SIVワクチン使用農場]

ワクチン投与後も野外でのSIV暴露がない場合はELISA値が陽転しないため、上述[SIVワクチン未使用農場]での基準と同様に、90日齢以降(移行抗体消失後と解釈)にELISA値で陽性を示した肉豚が1頭以上認められた農場を「陽性農場」としました。

全国平均
72.9%
(183/251)

まとめ

調査を行った過半数の地域において農場陽性率が**70%を上回り**、SIVが国内に浸潤していることが分かりました。



インフルエンザ&マイコプラズマ → 生産性への影響に注目!

インフルエンザ対策、実施していますか?



マイコプラズマとインフルエンザが混合感染すると、生産性が低下!
発熱は一過性であっても…

- ✓ 飼料摂取量が低下
- ✓ 増体量が低下 することがデータで示されています。

参考文献: Deblanc C. et al., Vet. Microbiol. 162 (2013), 643-651

【試験設定】

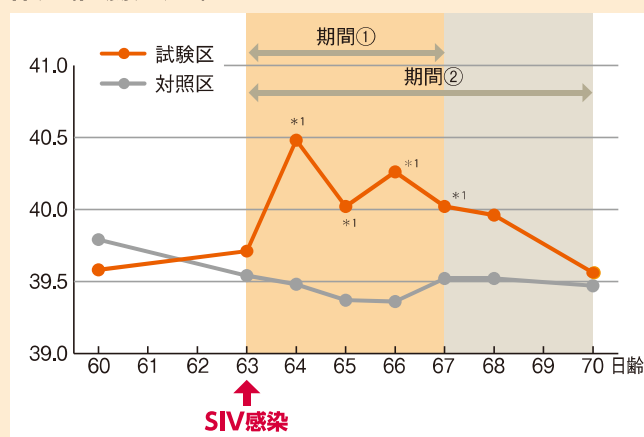
6週齢のSPF豚 (Mhp (Mycoplasma hyopneumoniae)、豚インフルエンザウイルス (SIV) フリー)

| | 頭数 | 試験0日 (42日齢) | 試験1日 (43日齢) | 試験21日 (63日齢) | 剖検 |
|-----|----|-------------|-------------|--------------|-------|
| 試験区 | 9頭 | Mhp感染 | Mhp感染 | SIV感染 | 試験28日 |
| 対照区 | 8頭 | 培地のみ | 培地のみ | 培地のみ | 試験31日 |

試験区は、Mhp もしくは SIVを含んだ液体培地を試験0, 1, 21日に経気道投与 (強制人工感染)
対照区は、Mhp・SIVのいずれも含まない液体培地を試験0, 1, 21日に経気道投与
臨床症状は試験期間中、毎日観察

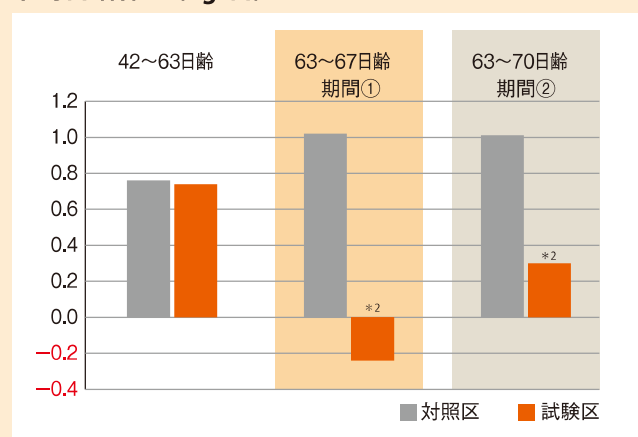
【試験結果】

体温 (直腸温、℃)



*1 対照区との間に有意差あり (P<0.05)

平均日増体量 (kg/日)



*2 対照区との間に有意差あり (P<0.05)

| | 呼吸数 | 飼料摂取量 † | 肺病変 ‡ |
|-----|----------|-----------|-----------------|
| 試験区 | 72~88回/分 | 511g回/日 | 48.9% (13.7/28) |
| 対照区 | 32~44回/分 | 1,743g回/日 | 0% (0/28) |

† 飼料摂取量は、SIV人工感染 (試験21日) から4日間の平均値
‡ 最大値を28としたうちの病変スコア (Maded et al., 1982)

SIV の影響は、
一過性の発熱だけではありません!

- 呼吸数が増加
- 飼料摂取量が低下

➔ 増体量が大幅にダウン!

マイコプラズマ感染下でインフルエンザが
混合感染すると生産性が著しく低下

豚にも
ワクチンが有効です